

# 平成27年第17回教育委員会定例会議事録

平成27年10月20日（火）

杉並区教育委員会

## 教育委員会議事録

日 時 平成27年10月20日（火）午後2時00分～午後2時36分

場 所 教育委員会室

出席委員 教 育 長 井 出 隆 安 教 育 長 馬 場 俊 一  
職務代理者

委 員 對 馬 初 音 委 員 伊 井 希 志 子

出席説明員 学 校 整 備 大 竹 直 樹 生涯学習スポーツ 和 久 井 義 久  
担 当 部 長 担 当 部 長

中央図書館長 井 山 利 秋 庶 務 課 長 岡 本 勝 実

教 育 人 事 藤 江 敏 郎 学 務 課 長 正 田 智 枝 子  
企 画 課 長

特 別 支 援 伴 裕 和 学 校 支 援 課 長 朝 比 奈 愛 郎  
教 育 課 長

学 校 整 備 課 長 喜 多 川 和 美 生涯学習推進課長 本 橋 宏 己

ス ー ツ 振 興 課 長 人 見 吉 也 濟 美 教 育 セ ン タ ー 白 石 高 士  
所 長

濟 美 教 育 セ ン タ ー 大 島 晃 濟 美 教 育 セ ン タ ー 手 塚 成 隆  
統 括 指 導 主 事 統 括 指 導 主 事

濟 美 教 育 セ ン タ ー 加 藤 康 弘  
就 学 前 教 育 担 当 課 長

事務局職員 担 当 書 記 小 野 謙 二

傍 聴 者 数 1 名

## 会議に付した事件

### (議案)

議案第61号 杉並区立科学館の廃止について

### (報告事項)

- (1) 学校運営協議会委員の任命について
- (2) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について

## 目次

### 議案

議案第61号 杉並区立科学館の廃止について・・・・・・・・・・ 4

### 報告事項

#### 1 報告事項

(1) 学校運営協議会委員の任命について・・・・・・・・・・ 13

(2) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について・・・・・・・・ 13

**教育長** ただいまから、平成27年第17回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

議事進行に先立ちまして、事務局より本日の会議についての説明をお願いいたします。

**庶務課長** 本日の議事録の署名委員につきましては、教育長より事前に對馬委員との指名がございましたので、よろしくをお願いいたします。

次に、本日の議事日程についてでございます。事前にご案内のとおり議案1件、報告事項2件を予定しております。以上でございます。

**教育長** それでは本日の議事に入ります。まず、議案の審議を行います。議案の上程、説明は、事務局よりお願いをいたします。

**庶務課長** それでは、日程第1、議案第61号「杉並区立科学館の廃止について」を上程いたします。生涯学習推進課長からご説明いたします。

**生涯学習推進課長** 私から、議案第61号「杉並区立科学館の廃止について」ご説明いたします。

科学館につきましては、昭和44年に「科学教育センター」として開設し、平成14年にはそれまでの学校教育分野に加えて、生涯学習分野の事業をあわせて行うことといたしまして、施設名称を「科学館」に変更し、以降、児童・生徒並びに区民の科学教育に対するニーズに応じてまいりました。

しかしながら、既に築45年以上が経過し、施設・設備の老朽化が著しく進んでいるほか、現状のままではバリアフリー化も難しい状況にございます。

一方、ICTやデジタル技術の発達によりまして、科学関連の設備・機器は高度化・コンパクト化されており、これらを用いて行う科学教育の事業は、必ずしも1カ所の施設に来館していただくかなくても、容易に地域に出向いて行うことができる環境となってきました。

こうした状況変化等を踏まえまして、区では、平成26年3月に策定した「杉並区立施設再編整備計画」の中で、今後は従来の来館型の事業を発展させ、身近な学校や地域施設に出向き、必要に応じて専門家等と連携・協働しつつ科学教育事業を行う出前型・ネットワーク型の事業展開に転換することとし、現在の科学館は平成27年度末をもって廃止することとしたものでございます。

この方針に基づきまして、平成26年度に小・中学校での出前授業、ま

た、地域施設等での出前事業を試行実施し、その結果を踏まえて必要な改善等を図った上で、平成27年度から本格的な取組として進めております。

今年度は、これまでに小・中学校で約320回の出前授業、地域施設等で約80回の出前事業を行っており、児童・生徒を始めとする参加者からは、「コイの解剖で体のつくりをととてもわかりやすく学ぶことができた」、「身近な場所で天文学習ができてよかった」など、総じて好評の声をいただいているところでございます。

また、これらの取組は、学校教育分野は済美教育センターを、また、生涯学習分野は社会教育センターを当面の拠点として実施しておりますが、こうした出前型・ネットワーク型の事業の充実はもとより、広く子どもから大人まで世代を超えて常に最先端の科学の提供体制を整える観点から、科学教育の拠点づくりが必要と考えてございます。

このため、現在、専門事業者に委託しまして、新たな科学教育の拠点づくりに係る調査・研究を進めているところでございまして、今後、調査・研究結果を土台として区としての検討・具体化を図り、平成28年度に予定しております「区立施設再編整備計画」等の改定の中で、新たな拠点の整備を計画事業として位置づけていく考えでございます。

これらの経緯、取組状況等を踏まえまして、現在の科学館は平成28年3月31日付をもって廃止することといたしたいと存じます。

以上で、説明を終わります。

議案の朗読は省略させていただきます。

**庶務課長** それでは、ただいまの説明につきましてご意見・ご質問等ございますでしょうか。

**對馬委員** 今のお話の中で、新たな科学教育の拠点づくりの調査・研究を委託されているということがございましたけれども、現時点でどんなイメージをされているのか、学校教育の分野だけでなく生涯学習、未就学児から大人の方まで今の科学館にはプラネタリウムなどや、展示を見に行くなどがあったと思うのですけれども、そういうことも含めて教えていただけますか。

**生涯学習推進課長** 今ご説明したとおり、世代を超えて幅広く子どもから大人まで最新の科学を提供すると、そういう場を目指しているわけでございますけれども、今年度の出前授業の実績を踏まえまして、学校教育

部門の小・中学校の出前授業は済美教育センターを核として実施することが適当ではないかと考えております。新たな科学教育の拠点につきましては生涯学習分野の事業展開と、学校教育分野の後方支援、学校教育では扱えない高度な科学教育ですとか、そういう部分の後方支援をするという、そういう方向でイメージをしているところでございます。

**庶務課長** ほかにはいかがでしょうか。

**馬場委員** 45年ですか、科学館。私が教員をやっている時代は科学教育センターという名称だったのですけれども、45年たっているということで本当に長い歴史というか、そういう部分での歴史もあるし、またいわゆる理科教育の向上という大きな役割を果たしてきたのではないかと思います。ただやはり45年がたって、現在学校訪問をさせていただいても当時から比べると理科室そのものが機材等もかなり充実してきている、もちろん全てではないですけれども充実してきているというのを感じるところがたくさんあります。

何が言いたいかという、学校の理科室で僕などはどちらかという自分でやっていたのですね。自分自身でやるためには実際に事前の研修とかそういうものをやりながら、実験をやりながら、そんなようなことで自分自身の力を高めていかなければならないという部分がかなりたくさんありました。もちろん科学館に行って授業をやっていただきながら自分自身も勉強になるというのがあったのですけれども、どうしても頼ってしまうところが当時などは今思い起こすとあるのです。ですから、そういった意味では教師自身も力を高めていかなくてはいけないというのは非常に大きな課題ではないかなと思っています。

そういう意味では各学校で、済美教育センターの指導員の方が来ていただいてやっていただけるというのは、より自分たち教員の力もそれまで以上にやはり向上するのではないかなという、別の意味での期待感というものもすごくあるかなと思います。そういった意味ではいわゆる出前授業という部分では大きなプラスになっていくということがあるのではないかなと思うのですけれども、そのあたりの考え方をもう一度お聞かせいただければと思います。

**統括指導主事（大島）** この出前授業ですが、カリキュラムの方も学習指導要領にこれまで以上に準拠した形づくり変えています。理科の出前授業も理科指導員、これは済美教育センターの職員ですけれども、理科

指導員と教員がともに授業をつくり上げていく、そういったことをこれまでよりもさらに充実して行っていけるように形を整えて実施しているところです。そのため、これまで以上に学力向上にもつなげていけるものになっていると考えております。

**馬場委員** ありがとうございます。現在の理科室整備状況というか、実験・観察等含めた状況というのは多分これまで以上により整備されているのではないかと思いますのですが、その現状というのはどうでしょうか。

**統括指導主事（大島）** まずICT環境につきましては、インタラクティブボードというのを各理科室に設置しております、科学館の実験室よりもむしろICT環境は整ってきていると考えております。また実験器具も、理科の授業を見ていただければわかると思うのですが、例えば顕微鏡といったものはこれまでグループに1台といったところが多かったものが1人1台といったところはかなり予算をかけて、多くの学校で準備しているところです。それから空調設備も整っておりますので、理科室の環境としては学びやすい環境がつけられていると考えております。

**馬場委員** 科学館が本当に廃止されるというのは、また別の意味でも長い歴史の中で大変別の課題というか、そういう思いもたくさん得られているのではないかなと思うのですけれども、自分も学校現場にいた段階で考えてみますと、確かに向こうに行って授業を実際受けてみるのは、さっき言ったように自分自身の力を上げるという部分でもプラスになるし、参考になるものもたくさんあったのですけれども、一番問題だったのは、やはり時間的なロスというのが非常に大きかったなというふうに思いました。

理科ですから大体学校でも2時間続きの授業をやるのですけれども、同じように科学館でも2時間やったのですが、実際2時間やっても実際には半日かかってしまう。つまり学習時間で言えば2時間分移動に当たったりあるはそのほかのものに当ててしまうというような、場所が近ければ、当然それは少なくなると思うのですけれども、やはりどうしても時間的なロスというものは非常に大きかったので、それを考えると逆に来ていただいて、そして学習に取り組むことができるならば、やはり子どもたちにとっても、いわゆる今言われている学習時間のロスというものが非常に少なくなるのではないかなと思うのですけれども。現状そういうのを考えていったときに何か課題というか、そういうものがも

しあったら、教えていただければと思います。

**統括指導主事（大島）** 現在9月末段階で、例えば実験授業ですと176回、移動式プラネタリウムが139回、合わせて315回実施しております。その中で教員からは「今までは科学館に出向くことで授業時程等を変更する必要があった。しかし、大きく授業時程を変更しないで実施できるようになってよかった」というような感想を得ています。また移動式プラネタリウムを体育館でやっておりますが、去年の試行段階でも子どもたちから移動式プラネタリウムを見て、すぐ教室で振り返って学びを深めることができたというような感想も出てきておりますので、特に課題はないと。むしろプラスに転じたのではないかと考えております。

**馬場委員** 多分そういうような状況が出てきて、プラス面というのはいかなり出てきているのではないかなと思います。それからこれは私の意見ですけれども、指導員が学校に出向いてくれて、そうすると理科室そのものもやはり大きく変わってくる部分があるのではないかなと思うのです。それはやはり専門的な先生方が実際に見て必要な器具というものを含め、あるいは使いやすさというものもいろいろな形で指導してくれるのではないかなと思います。そのあたりは実際成果として上がっているのではないかなと思うのですけれども、あったら教えてください。

**統括指導主事（大島）** 出前授業を行う前には実験器具等について綿密に連絡を取り合っております。そのときに例えば理科室にある器具等についても指導員がチェックをしていく。そういうところからすると、理科室の整備には生かされているのではないかと考えております。また科学館職員が今年度から済美教育センター職員になりました。済美教育センターの職員として学校に行くことが、やはり教員と連携をとる意味では今までよりも綿密にとれるようになったという感想は出てきております。

**馬場委員** ありがとうございます。自分がやっていた時代から考えみてもやはり大きく変わってきているなという部分と、プラス面もあつたりでいろいろな形で考えられているなど、そういうことは今お話を聞きながら感じさせていただきました。またちょっと後で何かあったら質問させていただきたいと思います。

**庶務課長** ほかにはいかがでしょうか。

**伊井委員** 今お話を伺っていて、1人に1台顕微鏡があるなんて考えただ

けでもわくわくするなと思います。本当に、子どもの頃のものぞくときのわくわく感というのは忘れられないものなので、すごくそこは子どもたちが体験をするのに前向きに取り組めるのではないかなと思います。

それから今先生方が直接専門家の話を聞いて打ち合わせをしながら授業がつかれるというところは、いろいろ試行錯誤をしながら進めている若い教員の方が多い中で、そういったところの打開策にもなるのかなと思って、すごく期待感が持てるなと思いました。

1点、手前味噌になってしまうのですが、長女が科学館の創意工夫展に出させていただいたことがありまして、発表させていただいた後、やはり科学館の方の助言をいただいて、また次の自分の学びにつなげていった経験が、もう何十年も前ですけれどもございまして、今創意工夫展などは科学館でやっていますし、すばらしい発表を昨年度聞かせていただきましたが、そのあたりはどのような形に今後なる予定とか、お決まりでしょうか。もし決まっていたら教えていただきたいと思います。

**統括指導主事（大島）** この科学創意工夫展ですけれども、小学校部門に関しては、これは図工展・書き初め展などの連合行事、これらと合同で行います。それから中学校部門については、中学校連合文化祭の展示部門として名称を両方とも「杉並子どもサイエンスグランプリ」という名称に変えて、今年度から開催いたします。小学校は2月5日から3日間、中学校は11月5日から4日間です。出展数等は例年どおりなのですが、今言いました研究発表につきましては、グランプリの表彰の場を含めて2月28日開催予定の「サイエンスフェスタ」、こういうところで考えております。その「サイエンスフェスタ」には科学のブースをいっぱい準備するわけですが、優秀作品をつくった子どもたちが発表するブースも1つ設けて、活躍させたいと考えております。

**伊井委員** そうすると、そういう発表の場により多くの方々を迎え入れることもできるということで、子どもであったり大人であったりということで、すごく広く聞いていただけるチャンスもあるということになりますよね。

**統括指導主事（大島）** これまでのほかの作品展と一緒にすることによって、より多くの方々に参加いただけるのではないかと考えております。

**伊井委員** 子どもたちの達成感にもつながるので、ぜひ前向きにご検討い

ただけたらありがたいです。よろしく願いいたします。

**庶務課長** ほかにいかがでしょうか。

**對馬委員** 形が変わっていくということでプラネタリウムなんかは出張で行っていて、テスト段階から大変うまくいっているということで伺っているのですが、例えば今まで小規模のものは学校でできましたが、大規模な流水実験場なんかやはり科学館にあってよかったという話を先生からも伺ったことがあるのですが、そういうものであるとか、新たな拠点に新しく科学館になかったものができるとか、そういった計画がもし今おありでしたら教えていただけますか。

**生涯学習推進課長** 今調査研究の段階ではございますけれども、新たな拠点にこれまで科学館にありました実験室ですとか、工作室のようなもののほかに加えて、区民や団体の方が気軽に集える交流スペースですとか、あと科学館のような、今固定展示・常設展示になっておりますけれども、定期的に展示がえができるような展示スペース、あとICT機器ですとか図書類、最新の科学情報を提供できるようなライブラリーみたいなものを想定しているところでございます。また、なかなか最新の機器というのは高額なものが多いのですが、企業等と連携をして最新機器を備えるというような、そういう拠点にしていきたいと考えてございます。

**統括指導主事（大島）** 流水実験につきましては、これまで科学館の流水実験場で行っていましたが、大きいところですから一斉指導の面が強くあって、課題とはなっていました。それを今回理科室で問題解決型の学習に適したグループごとで実験ができる形ということに転換を図っております。このことは理科の学力向上にも資することでありますので、教員研修等において昨年度から5回以上周知啓発を図ってまいりました。今後各学校において10月と11月に実施される単元ですので、各学校でしっかりと実施できるようにセンターとしても支援していきたいと考えております。

**對馬委員** ありがとうございます。やはり充実した実験の設備的な部分と、先生方の資質が上がることで、子どもたちの学力向上にもつながっていくと思いますし、科学的な目を芽生えさせる、科学に興味を持つ子がたくさん出てくるということはとても喜ばしいことだと思います。

杉並区にはノーベル賞をお取りになった小柴先生もいらっしゃって、科学館の名誉館長をしていただいたりしているのです。それに続くよう

な子たちがやはり育ってくれるといいなと思っております。小柴先生のお仕事の一部でしょうけれども科学館に展示なども今もあつたりしますが、それは今後も区民の皆様に見ていただく機会などはあるのでしょうか。

**生涯学習推進課長** 小柴先生がノーベル賞をお取りになった。また小柴先生のお弟子さんの梶田先生がノーベル賞をお取りになったということで、区民としては本当に喜ばしいことで、第二第三のノーベル賞受賞者が区民から出ることを本当に期待しております。

科学館のところに小柴先生の展示コーナーがございますが、あれは固定的な展示になっております。ですから科学館に来ないとなかなか見られないということになるのですけれども、その展示を移動して別の場所でも展示できるような形に変えたいと思っております。スペースさえあれば、例えば区役所のロビーですとか、社教センターの展示室ですとか、そういうところで展示をして、それを見たお子さんですとかがそれに刺激されてというか関心を持たれて、夢が広がればと考えてございます。

**對馬委員** よい考えだと思しますので、ぜひよろしく願いいたします。

**庶務課長** ほかにご意見等ございますでしょうか。

**馬場委員** 質問ではないのですが今と関連して、ノーベル賞の段階から、また科学というものの、理科に関しての興味・関心というのは一般の人たちもまた出てきているのではないかなと思います。天文に関して、新しい望遠鏡を、世界的な望遠鏡をつくるという計画も出ていますし、そういった意味ではちょうど理科への興味・関心というものがより高まっている中で科学館という物の捉え方というのが出てくるので、その辺についてはよりプラスになる部分のことを考えていただきながら、新たな形でのものを模索していただければかなと思います。多分それは区民の人たちもきっと願っている部分、それによって子どもたちもかなりいい影響を受けるのではないかなというふうに思いますので、ぜひその辺については十分な検討をしていただければかなと思っております。よろしく申し上げます。

**教育長** 新しい科学教育の拠点づくりの準備を今進めているわけですが、いろいろなリサーチをしてこんな方向がいいだろうという意見をまとめていく時期と、具体的にそれを施策として展開していくというまでにはちょっと時間があるわけで、そのときにいろいろな今日的な科

学の知見を検証して、どういったものをどういう形で児童・生徒や区民に提供していったらいいのかということを考えていきたい。私はよく自己成長型というか、成長型の科学教育の拠点がいいだろうと思うのですが、これは誰もがわかることだと思うのです。

どういうことかということ、例えどんなに有名なものであっても、展示してそれでおしまいということになれば、これは展示館であって、それ以上のものではない。私はドイツに行ったときに、ゲーテンベルクがつくった活版印刷の機械を展示してある印刷博物館へ行ったのですけれども、これは絶対に変わらないというか、当時のその科学技術というか出版技術がどうであったかということをもく明に見ていく上で残しておくべきものはきちんと残してある。これは時代が変わったから変わっていきますというふうに変わっていくものではないですよ。

しかし、我々は博物館をつくらうとしているわけではなくて、科学教育のサポートをしていく、あるいはそこに来て区民が生涯学習の一環として学んでいくことができると考えれば、当然求められるものはその時々を経済・社会状況によって変わるものもあるだろうし、変わらないものもあるだろう。

その辺の柔らかさというか、それはある意味ネットワーク型の、あるところから借りてきて最先端のものを展示する。また、みずから自前のものを活用してつくったり壊したりしながら、日ごろできないような科学実験をしてみるという、そういう結構やっかいではあるけれども、そこにかかわって学ぶ人も成長できるし、その科学教育の拠点自身も時代に合わせて成長していくことはできるような、そんな欲張った夢を持っているのですけれども、ぜひ時間をかけてそういった科学教育の拠点づくりを進めていきたいな、いろいろな知見を常に検証していただきたいと思います。

**庶務課長** ほかには、よろしいでしょうか。それでは教育長、議案の採決をお願いいたします。

**教育長** それでは議案の採決を行います。

議案第61号につきましては、原案のとおり可決して異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

**教育長** それでは異議がございませんので、議案第61号は原案のとおり可

決といたします。

引き続きまして、日程第2、報告事項の聴取を行います。事務局から説明をお願いいたします。

**庶務課長** それでは報告事項1番、「学校運営協議会委員の任命について」学校支援課長からご説明いたします。

**学校支援課長** それでは資料に沿いまして説明をさせていただきます。

今回天沼中学校の学校運営協議会委員2名につきまして委員に任命いたしましたので報告するものでございます。記載のとおりのお二方でございます。区分といたしましては学識経験者でございます。お二方も継続しての任命でございます。天沼中学校につきましては、8月31日の教育委員会におきまして、継続が決定されていた方、あるいは新たに公募をした上で委員として選定された方についてご報告申し上げたところでございますけれども、この学識経験者2名、あえて枠をしておりますが、この枠につきましてはその時点で10月以降に継続していただくかということが決まっていなかったものですから、きょう事後的な報告となってしまいました。いずれにしましても、この10月1日から2年間また改めまして、このお二方につきましては学校運営協議会委員としてご活躍を期待しているところでございます。

私からは以上でございます。

**庶務課長** それではただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それではないようですので、報告事項1番につきましては以上とさせていただきます。

それでは報告事項2番、「杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について」生涯学習推進課長からご説明いたします。

**生涯学習推進課長** それでは平成27年9月分の「杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について」ご報告をいたします。9月分の合計ですけれども、総数で35件でございます。内訳ですが、定例が33件、新規が2件でございます。共催・後援の内訳は、共催が10件、後援が25件となっております。

新規の承認ですが、2ページをご覧ください。2ページの1番、新規で後援でございます。団体名は「0才からのジャズ杉並実行委員会」、事業名は「0才からのジャズコンサート」でございます。もう1件が3ページでございます。こちらは社会教育センターで受け付けたものでご

ございますけれども、新規の後援で「津軽三味線集団 疾風」というところで「津軽三味線集団疾風コンサート十人十色」というものでございます。9月については新規は2件でございました。

私からの報告は以上です。

**庶務課長** それでは報告事項2番につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

**馬場委員** 「0才からのジャズコンサート」、これはどんな中身なのか。

**生涯学習推進課長** これは2010年から全国で開催されているコンサートでございます。21都道府県35都市で行っているものでございます。今回は杉並区で開催をするために実行委員会が結成されて、区内の障害者の招待など福祉向上にも関心のある団体ということで、後援を決定したものでございます。

**馬場委員** ありがとうございます。かなり歴史的な重みがあるコンサートであるということですね。

**生涯学習推進課長** 杉並では今回初めてです。

**庶務課長** ほかにはよろしいでしょうか

**伊井委員** 杉並区中学校対抗駅伝大会ですが、本年度は済美山グラウンドではなくて和田堀公園にするということでしょうか。

**スポーツ振興課長** 12月から東京都が済美山の陸上競技場を工事するというので、私どもも当初予定していたところなのですが、使えないということで急遽和田堀の野球場を発着場所として開催する予定となっております。

**伊井委員** 数年前にやられたようなコースとか、そういうことはまだ決定されていないということですか。以前やったことがありますよね、あちらで。

**スポーツ振興課長** 和田堀のグラウンドですね。そこは野球場ではなくてバス通りを挟んでさらに西側の300メートルトラックの方では以前に開催をしたことがあるのですが、今回は道路を挟んだ調節池となっている野球場の方で初めて開催をして、下流の方に走っていくといったことを考えております。

**伊井委員** わかりました。ありがとうございます。

**庶務課長** ほかにはよろしいでしょうか。それではないようですので、報

告事項 2 番につきましては以上とさせていただきます。

以上で報告事項の聴取を終わります。

**教育長** それでは以上で本日予定されておりました日程は全て終了いたしました。庶務課長、何か連絡事項がございましたら、どうぞ。

**庶務課長** 次回の日程でございますが、10月28日水曜日、午後2時から定例会を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

**教育長** それでは本日の教育委員会を閉会いたします。